

スリランカの寅さん

私は幼い頃から「日本」という国の名前を何度も耳にしたことがありました。母語であるシンハラ語では「日本」のことを「ジャパーナヤ」と言いますが、生まれて初めて、この言葉を耳にしたのは、人形について語るシンハラ語の子供の歌を通してでした。それ以来、日本の人形は世界で一番可愛い人形だと、そして、日本の女性も人形のように可愛く、桜の花のように美しい女性だと思っていました。このように、耳で聞いた日本のことを、当時スリランカのテレビで放映されていた「おしん」という日本のドラマを観たことによって、ある程度実感することができました。幼いとき見た日本は、日本や日本女性の美しさを語るシンハラ語の歌、もしくは、日本のドラマにすぎないものでしたが、だんだん大きくなっていくと日本に関する様々な面白い話も父親から聞くことができ、日本についての知識をもっと増やすことができました。父は、世界各国の歴史・政治などに興味を持ち、それらに対する知識も豊富だっただけでなく、1951 年のサンフランシスコ講和会議にて、日本の主権を擁護する演説を行った人、いわば、スリランカの第 2 代大統領である J.R.ジャヤワルダナのお孫さんの友人であったため、当時の日本とスリランカの関係についてはもとより、日本はどんなに素晴らしい国か、これからも日本のことをどのように大切にしていけるべきかについても語ってくれました。このように、小学生のとき「日本と日本女性の美しさ」、中学生のとき「日本とスリランカの関係に影響した政治的・歴史的な背景」について日本への理解を深めていきました。では、高校生のときの私には日本の何が新しく見えてきたのでしょうか。何と出会うことができたのでしょうか。

その答えは、ほかでもなく、日本の仏教と出会うことができたのです。日本とスリランカは異なる文化のある国ですが、例えば、両国の主食はお米、宗教は仏教が広く信じられているという点からすると、両者には共通点が全くないとは言えません。しかし、スリランカにあった日本のお寺に通い始めてから、日本とスリランカの仏教には異なる点がいくつかあることに気づきました。当時の私には両国の仏教の違いを興味深く分析するより、お寺で出会った日本人のお坊さんたちと直接日本語でコミュニケーションを取りたいという願望が強かったため、よくお寺へ参拝に行きました。お寺にいらっしゃるお坊さんたちと日本語で話すスリランカ人のスタッフのことが羨ましく、彼らの日本語での意見交換を眺めることが私にとって大きな楽しみだったからです。また、その頃日本語ができない私のような人に日本人のお坊さんの言うことを通訳してくれる通訳者の役にもすごく憧れを感じたきっかけでした。人生の中で一番いい出会いだったと今でも嬉しく思う、日本語と出会ったのです。

私にとって日本語は、耳にやさしく、発音しやすく、話す度に何とも言えない暖かさが感じられる素敵な言語でした。三種類の文字で成り立っている日本語が覚えにくいと外国人によく言われるが、私にはそのような気持ちが全くなく、楽しい遊びをする前にわくわくしてしまうと同じような気持ちでいつも日本語の勉強に取り組んでいました。このように日本語の美しさ

に触れ合いながら、日本語を一生懸命に勉強した結果、語学なら 1 番だと言われる、スリランカのケラニヤ大学に入学することができ、大学 2 年生になったとき、初めての海外での留学先が日本の八王子創価大学に決まりました。そこで 1 年間日本語や日本文化を味わうためのドアが開きました。私が大好きな日本語はこれから私をどこへ連れて行き、誰と出会わせるのでしょうか。

深く考えてみれば、日本語を学び始めたことは私の人生を大きく変える転機でした。それはどんなに大きい転機だったかという、故郷を離れ海外へ旅立つぐらいのものだったと言えます。親に従いながら普段の生活を送っていた私が、日本語という道を歩むと決心したのは、日本語が私の運命の赤い糸だったからかもしれません。日本人に限らず、日本という国で縁を結んだ世界の人々と一生続く友情を築くことができたのは素晴らしい日本語の力のおかげだからと言っても過言ではありません。このように、日本や日本語のことを心よりありがたく思いながら、創価大学時代に毎月奨学金として受けていた 5 万円という日本国民のお金に対して恩返しするつもりで一生懸命に勉強を頑張りました。自分の力でできることなら、小さいことであってもいい、大したことではなくてもいいと考え、日本とスリランカをつなげる架け橋のような存在になりたいと決断しました。このような願望を胸に抱いた私は、両大学の勉強を頑張った結果、卒業後ケラニヤ大学の非常勤講師になり、多くの大学生に日本語を教える貴重な機会を手に入れました。日本語のおかげでここまで来ることができたから自分の能力を社会に貢献しなければならない、先輩である自分が後輩を育てなければならないと思い、大学の仕事を毎日頑張っていました。道徳的な教えにせよ、日本語の教えにせよ、学生の前に立ち、目と目を合わせ、自分の後輩に教えることが毎日を幸せに感じさせる素敵なきごとでした。子供のときからもの静かな人だった私が、人に教える力なんてあるとは夢にも思いませんでした。その力を発揮できたのは日本語のおかげだからだし、日本語とは親にたとえられる大切な存在だなと感じました。

それほど日本語を尊敬し、愛していたからこそ大学の仕事で忙しい日々を送っていたにも関わらず、日本に関する次の出会いは何かと思いながら、興奮した心で待っていたのかもしれませんが、そのようなときに現れたのは、日本の皆さまを笑わせてくれた、時には泣かせてくれた、人生の本当の幸せがどのようなものかと私たち人間に手本になってくれた「フーテンの寅さん」です。日本人でもぜひ会いたがるような一番面白くて、可愛い寅さんと出会えたことは、今考えてみても、大きな驚きだったに違いありません。では、スリランカで出会った寅さんとはいったいどのような人でしょうか。外見でいえば、茶色のスーツを着て、帽子をかぶって、カバンを持って旅に出る男の人です。東京の葛飾柴又というところを故郷とされる寅さんが今回スリランカにやってきたのは、スリランカ人を笑わせたり、人生の大切さを教えたりするためだと、出会ったばかりのときにはわかりませんでした。最初に出会ったときは、多くの日本人と同じように、寅さんとは「困った男」だなあとというように思いましたが、寅さんとの付き合いが長くなればなるほど、なんて美しい人間なのだろうというように思えてきました。心の底か

「私の見た日本と世界」

氏名：アグラ イルクピティヤ

国籍：スリランカ

らほれてしまえば相手の欠点も長所のように見えてくるとよく言われますが、もしかしたら、寅さんと一緒に演じたマドンナと同様に私も心の広い寅さんにほれていたのかもしれない。しかし、寅さんの近所の人たちは自分の子孫に対して「寅さんのような人になるな」と言いながら怒るのに、なぜ、スリランカ人である私が寅さんのことをこんなに好きになったのでしょうか。

寅さんというその人自体が非常に美しい人柄をもっていますが、中でも一番印象に残った点がいくつかあります。一つ目は、多くの人が当然のことだと思い、簡単に通り過ぎてしまうような事柄を、単純で素直な寅さんが変わった目で見ることです。例えば、15 作の「リリを幸せにしたいと寅さんが思うシーン」、第 39 作の「人間の生きがいについて甥っ子のみつおに説明するシーン」、第 47 作に出てくる「鉛筆のシーン」などが挙げられます。相手の心を動かすような、美しく話す寅さんを見ると今でも目に涙が浮かびます。

二つ目は、スリランカの社会で見られる親子関係とほぼ似たような密接な関係が寅さんのご家族の中からも表現されていたことです。寅さんがたとえ自分の身近な人であるおじさんに殴られても、おばさんに怒鳴られても、さくらさんやひろしさんに怒られても、旅の途中で故郷を思い出したり、家族のことを夢で見たりするとすぐ故郷に帰るような心の優しい人でした。その面で寅さんは家族との関係を大事にするスリランカ人の性格につながっているのではないかと思いました。自分の幸せが家族の幸せだといつも考えていた寅さんの心なんてどんなに暖かくて、美しいのでしょうか。

三つ目は、旅先で出会う人の悩みごとを聞く相手になったり、自分はお金がなくても困った相手に自分が持っているすべてのお金をあげたり、あるいは、夜泊まる旅館に連れて行って一緒に泊まってあげたりして相手の心を喜ばせる、幸せな気持ちにさせる寅さんのような人間は、他人のため自分を犠牲にしたくないと思っている現代の人にとっては、最もいい手本ではないかと思っています。世間から笑われたとき、そのつらい思いを自分一人で我慢し、相手を幸せにすることだけを考える寅さんはどの角度から見ても辛抱強く見えます。

最後に、私はスリランカで寅さんと出会ってから、人間として生まれて良かったと思うようになったのと同じように、「日本語を学んで本当によかったなあ」と心から思いました。太陽が光で周りを照らすのと同様に、寅さんが自分の経験を教訓にして人間の生き方を私に教えてくれました。そのため私は、これまで日本・日本語・日本人に大変お世話になったことに恩返ししようと思い、「男はつらいよ」という映画のシリーズをシンハラ語に訳し、私だけが知っていた寅さんのことをスリランカの全国民に伝えました。人間として生きている意味を忘れた現代のスリランカ人の心をあらゆる面で幸せにするために、寅さんのような人の存在が欠かせないものであると思ったからです。寅さんのような心の美しい人が増え、世界は天国のような美しいところになりますように。